

遠山亭談後編

四

2245

新のどくろを曳き、後の舟のくも。雷と神より
とわたりし。ふるまの市のどくろ。まけどめかまらひ
いづれも同じくしをりといふ

○才也三章

たぐりしゆふ雪灰
ちがうりしゆ

六月中旬産後大羽林へ妻居せしむ。社地のおさへん
かまふ。はよふぐりしゆ。あつたふと産つて。あつ
おとどれたるふくどありける。奥院十二坊。中院志坊
室光院十七坊。今くそ十之院あり。中院比丘尼ふり
女人禁制之。社中ふくたうるこあり。本社のうらび
小九預龍王のまじり。はらひが。是と社のおん。社
地へ丸紙紙に。しよま生林くす。人あつて

○を山は希希之四

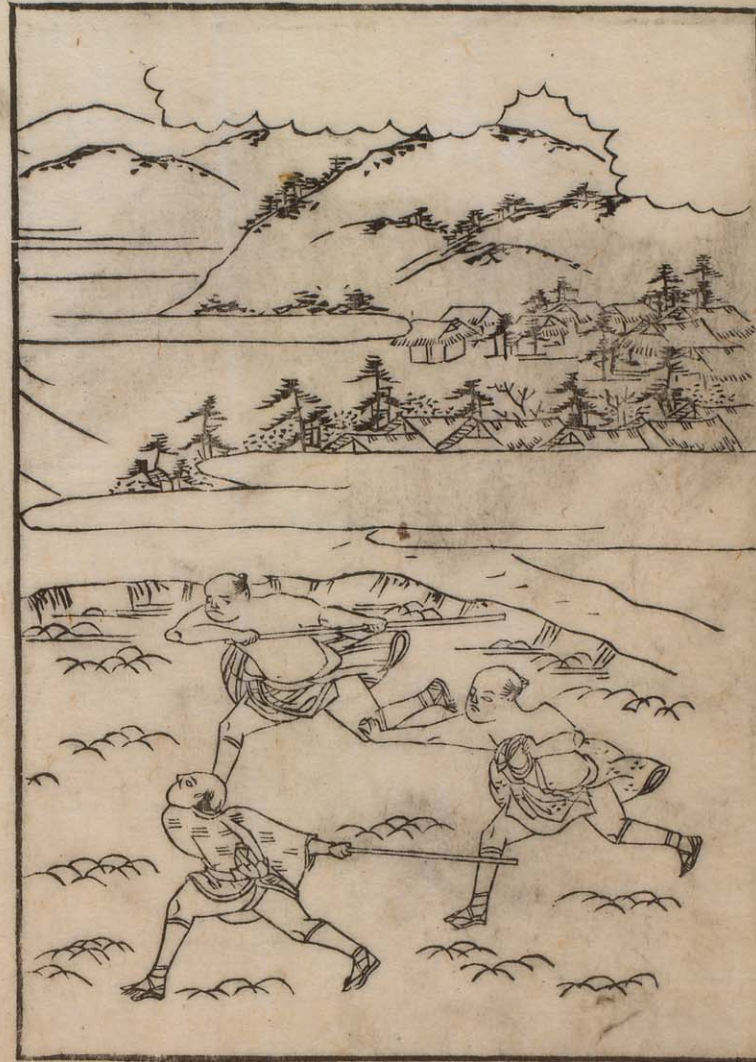
いんかう。社地沢の。一ヶみやすの。内伏末と社
あつふ。毎夜之井とたぐり飯。津法新し。是と
その。内津ふゆつふ。一社。の。をくま。又
社地の人ありて。あつたと供ふ。是と合せし。と
社のかまでもあゆ。はうま生林ありて。いんかう
社地。社の紙をりをり。いん
社地の。北の。社地の。北の
社地の。北の。社地の。北の
より。社地より。六月の。七月の。中まの
社地の。六月の。中まの。社地の。北の
社地の。北の。社地の。北の。社地の。北の

櫻くわると向ふ大日ケ雲あり。石佛の金胎あ
部の大日ニきあり。大とほくおひぬ元三四八
小洋まろそ本ゆふまきく大仏もよし。諸君さじ
く中くく人の海あちどちあわづばさうふ考ふ
昔よりくまふく。ニきとおひしとあさつたまはと
きあつて響くおつて信んてこあつて時の響くき
さうあはけく信とそりくまはとけおの中くあり
うさうあひかたりと。自心一信とさうふさうあ
しとあはけまはし。世は音くれて大日さあられ
あ。時のがふあうくしてさあられはんてんてん

○まじ山屋の末之四

○八

悪くけと明日ヲりふいぶこのや。虹のくくまふ
中。のくく。金まこの光あり。まを東まてふあり。
つひの孫定うけふと此のひり。眺がふの暮るを
布たるくく。られがけふはう。人たまれさうあぢく
妖賊捕死くく。氏の言とたりさうあり。むく。妖と
田ひ丸國あを焚けんそ。けふも入く。妖術と平け
時。まさうまのとまひちさうふ。終まさうの信ふ。隠れ
と。寒うく。終ふ。出なせう。そ。時。推河。り。大。天
細川。あ。あ。ち。に。大。地。あ。く。田。村。あ。ま。と。う。だ。ん。れ。世。の。雲。と
ま。ま。れ。ま。終。ふ。道。路。せ。わ。く。そ。ま。と。石。碑。お。の。こ。ら。う。く。く。あ



○弟二十三章

あま血の心とさるし

海^{せん}の^{らん}よりいさくの^きキ^さらるし^ある^しの^く後^か回^わら^いて^後頂^{てい}
 つ^らふ^をも^ゆふ^も天^{てん}と^んん^ん後^ご頂^{てい}う^らる^るか^りと
 い^ふも^やい^らち^らう^うと^と柳^{やなぎ}の^ひら^くく^もや^とと^ん
 一^とあ^れい^まま^まま^まわ^く後^ご頂^{てい}の^古奇^きう^も

や^とれ^ちあ^まの^いの^りさ^まも^も人^{ひと}の^こら^とと^とと^とと^とと^とと^と
 い^づふ^ふら^やら^らる^はみ^みさ^りら^らく^くい^いら^らる^ると^らら^らの^やも
 け^きの^らし^きる^る後^ご頂^{てい}の^硫黄^{おう}多^たく^{して}つ^らふ^不桐^{きり}と^硫
 黄^{おう}の^勢あ^ると^いい^づれ^もも^も考^つふ^もも^も後^ご頂^{てい}の^大坑^{けい}つ^らふ
 桐^{きり}の^ちの^ちの^硫黄^{おう}の^丸坑^{けい}の^廣九^三百^坑の^中に^硫黄^{おう}満^み

大うつ時のそ敵とせし〜
色あ〜してふ血の〜
りて湖く村とかなん又谷のふふ向へのふとのく
白烟のど〜たま〜し〜
み〜。酒完ま〜。く家の井戸の〜
けふもえり。庭の〜。そ烟もあつりのふと〜
ふるむ〜と〜せむ。そ〜も〜。血の体〜
かる〜。そ〜。〜。

○ま〜の〜と〜おん〜
様と〜。〜の奇〜

○ま〜の〜

○十二終

いん〜。あ〜。松林の威力又〜
霊〜。皆人か〜。これと〜
これのほ〜。無汗の〜。い〜。あ〜
は〜。ま〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜
あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜
あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜
あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜
あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜

ま〜の奇〜の〜

